

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年
12月29日
第158号



クワスイモ（サトイモ科）

温室内の鉢の中で、いわゆる「イモ」が見られています。サトイモ科の常緑性多年草で、四国南部、九州から沖縄にかけて分布しています。名前の由来は、食べられない芋から。全草にシュウ酸カルシウムから成る針状結晶を多く含み、食べるのはもちろん、皮膚、粘膜に触れるだけでも強い刺激痛を起こすことから、毒草と言えます。地上部が食用のサトイモとよく似ているため、誤食による中毒事故が報告されていますが、根茎はサトイモと違って棒状なので、「イモ」の状態なら区別は容易です。

根茎と茎がカイウ（海芋）という名の生薬となり、中医学で清熱解毒、行気止痛を目的に、感冒、関節痛などに使用しますが、有毒とされ、修治または2時間煎じる必要があるとされています。

ヤーコン（キク科）

第三圃場で花が咲いています。南米原産の一年生草本で、アンデス山脈の先住民が塊根を食用としていました。日本へは20世紀後半に導入されました。キク科の植物はデンプンではなくイヌリンとしてエネルギーを蓄積するものが多いですが、本植物も例外ではなく、塊根に多くイヌリンを含みます。イヌリンは食物繊維として便秘の改善が期待できるほか、難消化性で低カロリーなのに満腹感を与えることからダイエット用食品として利用されます。根がセツレヒカ（雪蓮果）という生薬となり、中医学で除寒壮陽、止血調経を目的に、関節炎や月経不順などに利用されますが、中国でも機能的食材として利用されています。中国語での植物名では「菊芋」がクワイモ、「菊薯」がヤーコンのことを指しますが、どちらの漢名も日本語では「クワイモ」と読むのが、ややこしいです。